

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自分のコンディションを把握し、病気と向き合う力、目標の実現に向けて取り組む力、 自分を大切に思うとともに、周囲の人を大切に思う心をはぐくむ学校 ・・・・・・・・5つの輪 つながりあって ひとつの輪・・・・・・・・ 1 一人ひとりの「学ぶ意欲」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を実感することで、治療に立ち向かう心を育てる。 2 病気療養中の児童生徒が、安心して安全に学ぶことで、自分の目標に向けて進もうとする意欲を育てる。 3 さまざまな人とのつながりを通して、自分も他者も大切な存在であることに気づき、お互いを認め合う心を育てる。 4 家庭・病院・関係機関との連携のもと、病弱教育への理解推進を図り、支援学校のセンター的機能を果たす専門性の向上に努める。
--

2 中期的目標

1 病弱教育における切れめのない支援の推進 （1）入院中の学習機会を積極的に捉え、基礎学力の定着を図るとともに、「わかる」「できる」授業により自己肯定感を育む。 （2）ICTを積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。 ※学校教育自己診断（教材や教え方などが工夫されわかりやすい）肯定的評価 R9年度 90%以上を維持（児童生徒 項目2 R4 95% R5 79% R6 86%） ※学校教育自己診断（コンピューター等の情報機器が活用されている）肯定的評価 R9年度 95%以上を維持（教職員 項目20 R4 98% R5 70% R6 88%） （3）児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。 ※学校教育自己診断肯定的評価 R9年度 70%以上をめざす。（児童生徒 項目4 R4 65% R5 63% R6 64%） （4）病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする。 ※学校教育自己診断（学校は病棟と連携して教育活動を行っている）肯定的評価 R9年度 90%以上を維持（病院関係者 項目5 R4 87% R5 91% R6 89%） ※学校教育自己診断（学校は前籍校や病院と連携して指導にあたっている）肯定的評価 R9年度 100%をめざす。（保護者 項目11 R4 100% R5 97% R6 97%） 2 病気のある児童生徒への支援の充実を図るための専門性の向上と支援の継承 （1）センター的機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを企画実施し、地域校とともに病弱教育の専門性の向上に努める。 ※学校教育自己診断（地域支援は十分に行われている）肯定的評価 R9年度 80%以上をめざす。（教職員 項目26 R4 63% R5 90% R6 85%） （2）本校にある筋ジストロフィー、心身症、慢性疾患等に関する教育実践を地域支援として活用していく。 （3）教育実践の振り返りを行い、病弱教育の専門性の継承につなげる。 （4）国立特別支援教育総合研究所等への研究協力や全国、近畿の病弱支援教育団体と連携しながら、単独の病弱支援学校としての役割を果たす。 3 安全・安心な学校づくり （1）病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、部署ごとに最適な学校行事を計画し進める。 ※学校教育自己診断（行事は、楽しく参加できるよう工夫されている）肯定的評価 R9年度 85%以上をめざす。（児童生徒 項目10 R4 83% R5 79% R6 90%） （2）病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒理解、人権擁護につなげる。 ※学校教育自己診断（人権尊重に基づいた指導が行われている）肯定的評価 R9年度 90%以上を維持する。（教職員 項目15 R4 90% R5 96% R6 86%） （3）危機管理体制（個人情報 の適正管理、教育活動中の事故防止、医療的ケアの実施、感染症対策）について徹底して取り組む。 ※学校教育自己診断（個人情報に関する管理システムを適正に活用している）肯定的評価 R9年度 95%以上を維持する。（教職員 項目18 R4 95% R5 87% R6 92%） （4）災害時の対応について各部署で確認し校内体制を整備する。 ※学校教育自己診断（事故・災害時等に迅速に対処できるよう役割分担が明確化されている）肯定的評価 R9年度 80%以上をめざす。（教職員 項目24 R4 72% R5 62% R6 91%） （5）ICTを活用した効率的な会議運営を進めるとともに、本校・分教室間の連携を深め、同僚性を高めることで働きやすい環境を整備する。 ※ストレスチェック健康リスク R9年度 100 をめざす。（R6 109 ）
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6 年度値]	自己評価
1 切 め の な い 支 援 の 推 進	(1) 入院中の学習機会を積極的に捉え、基礎学力の定着を図るとともに、「わかる」「できる」授業により自己肯定感を育む。 (2) ICT を積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。 (3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。 (4) 病院・関係機関との連携を密にし、地域校を含めたケース会議の実施等、機関連携をコーディネートする。	(1) ア 「個別の指導計画」を活用し、在籍期間の個々の目標を明確にして教育活動を行い円滑な復学につなげる。 イ 授業力の向上をめざした教員研修の充実 ・全校教科研修会（年2回） ・部署研修 ・大阪府教育センター実施の研修への参加 ・初任者研修等に係る研究授業を実施し教員全体の資質向上に資する。 ・枚方市、豊中市教育委員会実施の教科に関する研修参加 (2) ア ICT を活用した社会見学や部署間交流の推進 ・WEB 校外学習 ・ロボットプログラミング選手権参加 ・アバターロボット、メタバース活用 イ 校内 ICT 研修会の実施 (3) ア 進路を見通したキャリア教育と日常におけるキャリア教育を意識して進める。 （設定キャリア教育とキャリア教育に関連した指導の推進） イ 「個別の教育支援計画」を活用し、本人、保護者、教員が同じ方向性をもって将来の社会参加に向けた教育活動を進める。 (4) ケース会議（退院時カンファレンス）を病院と連携し円滑に進める。 【連絡会の主な内容】 ・現在の児童生徒の状態 ・今後の学校生活で配慮すること （登下校、在校時間、給食、服薬、配慮がいる教科、清掃活動、学校行事への参加など） ・緊急時の対応 ・本校での様子（学習進度、自立活動等）	(1) ア 学校教育自己診断（児童生徒）「授業はわかりやすく楽しい」肯定率 85%以上を維持する〔86%〕 イ 学校教育自己診断（教職員）「研修は幅広い教育実践に役立つような内容となっている」肯定率 90%以上をめざす〔89%〕 (2) ア 学校教育自己診断（児童生徒）「行事は楽しく参加できるよう工夫されている」肯定率 90%以上を維持する〔90%〕 「1人1台端末を効果的に活用している」肯定率 70%以上をめざす〔63%〕 イ 学校教育自己診断（教職員）「情報機器が授業などで活用されている」肯定率 90%以上をめざす〔88%〕 (3) ア 学校教育自己診断（教職員）「キャリア教育の視点をもって授業づくりをしている」肯定率 80%以上をめざす〔新規〕 イ 学校教育自己診断（教職員）『「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について本人・保護者のニーズをふまえて作成している』肯定率 95%以上をめざす〔94%〕 (4) 学校教育自己診断（病院関係者）「病院と学校の連絡会は役に立っている」肯定率 90%をめざす〔80%〕	

2 専門性の向上と支援の継承	(1) センターの機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを企画実施し、地域校とともに病弱教育の専門性の向上に努める。 (2) 本校にある筋ジストロフィー、心身症、慢性疾患等に関する教育実践を地域支援として活用していく。 (3) 教育実践の振り返りを行い、病弱教育の専門性の継承につなげる。 (4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力や全国、近畿の病弱支援教育団体と連携しながら、単独の病弱支援学校としての役割を果たす。	(1) 病院と連携した公開セミナーの実施 【訪問】筋疾患、心疾患等 【阪大】病気療養児のための研修会 【滝井】滝井セミナー 【精神】輪になって支えよう研修会 (2) 地域支援の取り組み ・地域校への巡回相談の実施 ・研修講師派遣 (3) ア 実践報告集「とねやま8号」をまとめる。 ・12月までに原稿を収集し年度内に発行する。 イ 共有できる教材の蓄積を図る。 “ふしぎなポッケ 刀根山支援” (4) 令和7年度 第61回 近畿・東海・北陸地区病弱虚弱教育連盟 研究協議会 大阪大会を事務局校として円滑に進める。	(1) オンライン等も活用し、公開セミナーの総参加者数600人以上を維持する〔676人〕 (2) 学校教育自己診断(教職員)「地域支援は十分に行われている」肯定率 90%以上をめざす〔85%〕 (3) ア 実践報告集「とねやま8号」を3月末までに作成し、学校ホームページに掲載する。 イ 学校教育自己診断(教職員)「児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている」肯定率100%を維持する〔100%〕 (4) 定例理事会 総会・研究協議会(大阪大会)次年度への引継ぎ 【主な引継ぎ事項】 ・年3回の理事会運営 ・大阪大会運営(8月実施) ・会計業務	
-------------------	---	--	--	--

3 安全・安心な学校づくり	(1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、部署ごとに最適な学校行事を計画し進める。	(1) 従来の学校行事の改善と分教室ごとの新たな学校行事の実施に向け検討していく。 また実施した行事を発信していく。	(1) ・学校教育自己診断（児童生徒）「行事は楽しく参加できるよう工夫されている」肯定率 85%以上を維持する〔90%〕 ・学校教育自己診断（教職員）「児童生徒が楽しく行事に参加できるよう工夫・改善を行っている」肯定率 85%以上を維持する〔98%〕	
	(2) 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒理解、人権擁護につなげる。	(2) ア 病弱教育における自立活動の取り組みについて確認し、本校・訪問教育部、4分教室で計画して進める。 （設定自立活動と自立活動に関連した指導の推進） イ 人権教育に関する研修を年間3回実施し、人権意識の向上につなげる。	(2) ア 自立活動に関する研修を本校・訪問教育部、4分教室で学期に1回実施する。 イ 学校教育自己診断（教職員）「人権教育に関する研修に参加し、人権意識の向上に努めている」肯定率 90%以上をめざす〔86%〕	
	(3) 危機管理体制（個人情報の適正管理、教育活動中の事故防止、医療的ケアの実施、感染症対策）について徹底して取り組む。	(3) 想定される学校事故について注意喚起しながら危機管理を進める。 ・年度当初に個人情報の取り扱いについて周知し、本校の管理体制を確認する。 ・記録簿の不定期チェックを行う。 ・ヒヤリハット事例の共有	(3) 学校教育自己診断（病院関係者）「問題が起こったと際、学校は迅速に対応することができている」肯定率 90%以上を維持する。〔95%〕	
	(4) 災害時の対応について各部署で確認し校内体制を整備する。	(4) ・防災マニュアルについて年度当初に周知し、各自の役割を確認する。 ・部署ごとの避難訓練を実施する。 ・災害備蓄品の管理・運用を進める。	(4) 学校教育自己診断（教職員）「防災教育・安全指導は十分行われている」肯定率 80%以上を維持する。〔88%〕	
	(5) ICT を活用した効率的な会議運営を進めるとともに、本校分教室間の連携を深め、同僚性を高めることで働きやすい環境を整備する。	(5) ・校内の会議を対面、オンラインで計画的に実施する。 オンライン会議を効率的に行うとともに、対面での会議を必要に応じて計画的に行い、お互い会って協働する機会を設定することで、同僚性の向上につなげる。	(5) ストレスチェック健康リスク 105 をめざす。 〔109〕 【対面】（月） ・全校職員会議 4、5、7、8、12、3 ・全校人権研修 7、8、12 ・全校教材研修会 7、12 ・運営委員会 毎月 【オンライン】 ・全校 WEB 連絡会 6、9、10、11、1、2 ・安全衛生委員会 毎月 ・分掌会議（必要に応じて対面）	